

無雙神傳英信流抜刀兵法  
大石 神影流 剣術  
澁川 一流 柔術

# 貫汪館会報

第78号

発行 貫汪館 発行日 平成二十六年四月十三日  
森本邦生 広島県廿日市市宮内一四八〇

## 平成26年 横浜支部講習会

平成26年1月19日(日)と平成26年2月11日(火) 建国記念の日、横浜支部において講習会を開催いたしました。

名古屋西支部長と横浜支部会員を合わせて、1月は11人、2月はインフルエンザとケガで2人が欠席されて8人の参加がありました。20代女性から70代男性まで、他流派他武道の経験者や劇団の方、地元神奈川から東京、栃木、名古屋までと幅広い方々です。栃木から参加いただいた方は、外はまだ暗い5時半に家を出られたとのこと、頭が下がる思いです。

1月は午前到大石神影流剣術の構え、素振り、試合口五本、陽之表本のうち五本を、午後は無雙神傳英信流抜刀兵法の詰合を、貫汪館館長に指導いただきました。

2月は午前のみで大石神影流剣術の構え、素振り、試合口五本、陽之表十本すべて、さらに陽之裏十本のうち三本を、貫汪館館長に指導いただきました。

冬の冷え込みが厳しく、足袋を履いていても足の裏から冷えが伝わってくる中での講習会でしたが、皆さんは大変一生懸命に稽古されていました。

御蔭様で多数の方に参加いただき、盛況のうちに無事に講習会を終えることができました。この場をお借りして御礼申し上げます。講習会は準備、運営、片付けなど大変なものです。それ以上に自分の修業になります。

そしてなにより、参加していただいた方々が少しでも楽しい時間を過ごしていただけたのであれば、とてもうれしく思います。次回講習会の開催日は未定ですが、また有意義な講習会を開催できればと思っております。

(文責 横浜支部長 内住信之)

## 貫汪館本部講習会

平成26年4月5日(土)、廿日市スポーツセンター(サンチェリー)にて貫汪館本部講習会が執り行なわれました。当日は本道場の門人をはじめ、横浜支部、名古屋西支部及び北大阪支部の各支部長ならびに門人の方が集まり、盛大に執り行なうこととなりました。

この度の講習会は午前と午後の部に分けられ、午前を大石神影流剣術、午後を無雙神傳英信流抜刀兵法の2部構成で進められました。

午前の部、大石神影流剣術は廿日市スポーツセンターサブアリーナにて、前回の本部講習会の稽古内容を「試合口」から「陽之表」、「陽之裏」、「三學圓之太刀」と二人一組のペアで復習していきました。それぞれの手の復習を行う中で、普段各道場間では稽古を一緒に行うことができない門人の方との手合わせとなりましたが、どなたも違和感なく手数を合わせておられるのに驚かされました。これはひとえに豊富な稽古量と教えに忠実に稽古を積まれてこられたからだと感じました。

「三學圓之太刀」までの手数の復習で十

分に大石神影流の動きの確認を行った後、今回初めてとなります「稽合」、「棒合」の手数へと移りました。まずは「稽合」、「稽合」は稽による表面への突き、裏面への突きに刀で対する2本の手数です。稽で攻める相手の間合いに入り、稽をかかわして、張り、斬り込むというシンプルな動きが手数に収められています。この動作を形としてのみ捉え行くと、ひとつひとつの動作が途切れ、まったく使いものにはならない動きを身につける事となってしまう。入り身から、斬り込みまでの動作を滞りなく動くことができずはじめて用をなすシンプルでいて自然な動きを要求されています。これは形であって形ではないような実践に近い心の在り方を求められているように感じました。この感覚は澁川一流柔術の鎖鎌に於いても感じたことがあります。この度の稽古では、六尺棒で代用しましたが、貫汪館館長が持参された一間半はあろうかという稽で、それぞれの組を回られ、実際の稽の間合いを経験させていただくことができました。稽と対峙した時、穂先が点でしか見えなかったこと、恐れて後に引けば次々と突きを受けて対処できなくなることなどを経験し、稽の恐ろしさを知ることができました。続いて「棒合」の手数3本、「棒合」は棒で刀に対する手数です。手数のなかで不思議な棒での打込み方が出てきます。稽古中、どうしても形にばかり意識が行き、小手先の動きとなり棒に重さが出てきません。意識が体感から離れてしまいます。色々な動きを稽古することは、

あらためて自分の弱点を知る良い機会となります。手数の稽古の後には防具を着けての稽古です。この度の講習会では、一本ずつ手合わせをしては相手を変える稽古方法を体験しました。防具着用の稽古では相手の間合い、自分の間合いを身体に浸透させるのに有効であると感じました。昼食後、午後から廿日市スポーツセンター内の武道場へと場所を移し、本部道場の柔術の稽古と自由稽古をはさみ、午後の部へと入ります。

午後の講習内容は無雙神傳英信流抜刀兵法の大森流です。まず初発刀に多くの時間をさき進められました。手の内、斬撃を確認、ご指導いただき靴への指のかかりなど繊細な動きを詳しく解説いただきながら抜き付けまでの動きを確認していきます。血振い、納刀までの動きを詳細に解説いただき、各自の動きのなかで先生に細やかなご指導をいただきました。続いて左刀、右刀、当刀までを初発刀との腰の開きを比較しながら細部を解説していただきました。陰陽進退から後の形については、実際に相手をおき、形の想定を説明していただいたので、様々な自身身の思い違いに気付かされました。

この度の講習会では、形の奥深さを改めて理解することができました。これから先の稽古で、さらに繊細に形の奥深さを感じることを求めていかなければならないことを痛感いたしました。

(文責 竹林哲也)



貫汪館平成26年  
広島護国神社奉納演武

平成26年4月6日、広島市の広島護国神社において、貫汪館平成26年広島護国神社奉納演武を開催し、無雙神傳英信流流刀兵法、大石神影流剣術、澁川一流柔術の奉納を行なわせていただきました。貫汪館では毎年広島護国神社にて演武を奉納させていただいており、館としての恒例行事となっております。今回は特に、4月20日に福岡県大牟田市において行われる大石神影流剣術第7代宗家継承式へ参加するにあたり、一同特別な思いで正式参拝に臨み、技と心を宗家継承式へつなげることができるようお祓いを受けて、ご祭神の御力をいただきました。

正式参拝後、広島護国神社の潮禰宜様より「つい先日まで広島城も桜が満開であった。桜と言えば本居宣長の『敷島の歌』が有名である。『敷島のやまごころを人とはば朝日にほふやまざくら花』やまごころとはどのようなものかと聞かれたならば、まさにこの歌にある満開の桜が朝日をあびているようなもののだと言えよう。桜は満開の絶頂期、ほんの短い期間で潔く散ってゆくところが日本人の精神性をもっともよく表している花だという意味で宣長はこの歌をつくったのである。また、全国の護国神社の神紋は菊と桜が象られており、菊は日本の象徴である皇室を表し、桜は日本人または日本の軍人の潔さを表している。我が国の軍人は戦時中でさえ礼儀正しきや潔さが評価され、アジア地域の多数の国々から慕われてきた。武道においても同様で、皆さんもただ技術

を習得することだけを目的とすることなく、心や生き様を学んでいただきたい。」とお言葉を賜りました。今回の奉納演武には、貫汪館本部、横浜支部長、名古屋西支部長等多数の会員の参加がありました。開会式で森本館長より「修行というのは得てして自分の為だけを考えてしまうが、今後は稽古を通じて得たものを人のために何かすることができるとかどうかを考えるように、それが本当の修行である」とのお話があり、続いて貫汪館顧問岡田先生より「稽古とは日々コツコツの積み重ねがあつての技術の向上である。本日演武される先生方の演武をよく見学し、技術を盗まなければならぬ。先ほど森本先生が話されたとおり、技を磨き、心を磨く、人格を高めるための稽古だということをお忘れないように。」とお言葉がありました。その後、演武は居合、剣術、柔術を交互に行い、最後に森本館長による無雙神傳英信流流刀兵法の演武で終了しました。演武後閉会式において、貫汪館顧問上條先生より「みなさん開会式での岡田先生、森本先生のお話しの内容を覚えておられるか。もう一度お二人のお話しの内容をよく思い出して、噛み締めながら今後さらに精進していただきたい。」とお話があり、最後に森本館長から「今日の演武を振り返り、自分自身で課題がわかったことと思う。上手な演武をしようとか丁寧な演武をしようとか考えるとそこに居ついてしまう。自分の心がそのまま演武に出てしまうので、演武の内容を自分で振り返って今後の上達に

つなげるように。」と講評をいただき、貫汪館平成26年広島護国神社奉納演武を終了しました。

大石神影流剣術第7代宗家継承式への参加を間近に控えており、本日各先生からご指摘いただきました点をよく考え、工夫を重ねて宗家継承式に臨むとともに、今後益々精進して参りたいと思います。

(文責 竹本道場長 竹本康祐)



広島護国神社奉納演武所感

平成26年4月6日(日)に広島護国神社にて、毎年恒例の奉納演武会に参加致しました。当日は、晴れ間が見えていたかと思うと突然豪雨になる生憎の天気でしたが、貫汪館の門人全員が協力してスムーズに会場の準備を終え、奉納演武会も滞ることなく進行することができました。今年も、貫汪館顧問・岡田先生のご門人の方々や貫汪館各支部の支部長の方々など多くの参加者があり、前年とは違った雰囲気での演武会となりました。また、あいにくの天候にも関わらず、多くの方々が見学をされておられました。

その中には、広島に訪れた外国人観光客の姿も見られ、貫汪館の武道を海外の方に知っていただく良い機会にもなったと思われました。今回、私個人は無雙神傳英信流流刀兵法・大石神影流剣術・澁川一流柔術と三流派の演武を行いました。毎回思うことですが演武会では多くの事を発見し学ぶことができると思います。稽古の場とは違つた所で演武をし、先生方をはじめ多くの門人の方の演武を見させていただく事で、自分のやるべき稽古が見えてきます。臍下丹田を中心とし、呼吸に乗った動きを心掛け、自分自身の調和を保ち、なおかつ自分独りよがりな動きではなく相手との調和のとれた動きを深めなければと改めて感じました。今回も多くの方が自分自身にとつては実りのある演武会となりました。今回、見えたことを今後の稽古に生かし、指導に生かすよう努めてまいりたいと思います。

最後に、今回私は少し時間をいただき、みなさんの演武の写真と撮ることに専念できました。みなさんよく稽古をされていると思いましたが、特に最年少の子供の演武は良かったと思えました。目附や気合い、残心などよく稽古をされており、特に止まることのない動きには驚かされました。みなさんも稽古の時にはこの子の動きを観て、自分の稽古の糧とされるとよいと思います。また、出来るならばいろいろな方の演武を見てみる目を養いましょう。有難うございました。

(文責 七尾道場長 片岡潤一)

